

事業者排出量削減計画書（変更）

京都府知事殿	平成
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 大阪市北区芝田二丁目4番24号	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又 西日本旅客鉄道株式会社 執行役員 京都支社長 大橋 幸之助 電話 075 - 682 - 1870-04111-11

京都府地球温暖化対策条例第18条第1項（第18条第2項、第18条第3項）の規定により提出します。					
特定事業者の主たる業種	鉄道事業				
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））				
計画期間	平成18年4月～平成20年3月				
基本方針	JR西日本は、地球環境保護に取り組み、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。				
推進体制	地球環境委員会（委員長：鉄道本部長）及び支社地球環境委員会（委員長：支社長）を設置し推進する。				
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	計画内容		
	18～20	省エネ車両	20年度末目標「省エネ車導入比率65%」に向けた省エネ車両の導入を毎年度継続して実施する。		
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （17）年度 （二酸化炭素換算（t））	目標年度（計画） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））	削減率 （計画） （%）	
	A 事業所等排出区分	t	t	%	
	B 輸送車両排出区分	1,370,191 t	1,370,191 t	0.0 %	
	C その他排出区分	t	t	%	
	排出合計	*1 1,370,191 t	*2 1,370,191 t	0.0 %	
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			
		取組量等 （二酸化炭素換算（t））			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t
削減量等合計			*3	t	
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）		
	*1 1,370,191 t	(*2)-(*3) 1,370,191 t	0 %		
特記事項	・20年度目標として、 ①省エネ車導入比率を65%まで向上（※1990年の省エネ車比率は14.4%） ②列車運行（電車）に関する車両あたりの消費エネルギー原単位量を7年比6.2%削減 ・駅におけるバリアフリー機器の導入 ・各種機器取替時における高効率機器の導入 ・全社の駅及び保全部門でISO14001又はこれに準拠した独自の環境管理システムを導入（12年度～） 【変更事項】基準年度の17年度に把握不能であったガスの使用量について、18年度実績をそのまま17年度の想定値として二酸化炭素排出量に加算した。また、その他の燃料種別欄の3種について原油換算係数及びCO <sub>2</sub> 排出係数を条例数値に修正した。				
連絡先	担当部署				
	担当者氏名				
	住所				
	電話番号				
	ファクシミリ番号				

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは、京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは、自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは、上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO<sub>2</sub>排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。